

新宮山彦ぐるーぷ第2281回

行仙宿整備と行仙宿く21世紀の森間の奥駈道巡視

◇実施日 3月31日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、濱野兼吉、児嶋道夫、乾克己、畑林秀味・

清子、生熊千満子、大江加予子・徳子、大森洋、阪口

雄二、西克、高階美根子、山川自治、上村和美、小西

陽子、梶野照雄、由井洋三、湯川一郎、鳥羽真司(和

歌山県東牟婁振興局局長) 20名

本日は20名の参加で久しぶりの大所帯だ。持ち込んだ荷揚げ品は終点の荷物置き場増床のパイプや垂木などの資材と工具類、小屋の枕収納用の衣装ケース2個、缶ビール2ケースなど大量であり、児嶋さん2往復でやっと上げることができた。なおこの日、新宮組と由井さん、山川君は午前7時半に21世紀の森で集合し、21世紀の森に湯川車、東屋岳登山口に由井、山川の2車をデポした。

通行を予定していた葛川線が崩土通行止めになっている、と前日に山川君から貴重な情報が寄せられ、玉置山経由か十津川村滝から行かなければならなくなった。時間が余分にかかるので新宮組に午前6時半集合を午前6時集合に変更を連絡したりで、慌ただしい1日だった。

モノレールでの荷揚げも終わり、児嶋、乾、畑林秀のお三方には荷物置き場の増床工事に専念していただき、11名が行仙宿に向かう。衣装ケース2個は先行した山川君が小屋迄運んでくれていた。

行仙宿に到着。東屋岳巡視班の5名はすでに出発していた。男5名で小屋周りの雨水槽を元に戻し、モノレール終点の残りの荷物を荷揚げする。女性陣にはお堂の清掃・整理をお願いした。連休前なので各種在庫の確認やネズミにかじられた枕の処分や他の被害がないかの確認もして頂いた。お昼までまだ時間があるので、男5人と女2人で行仙岳北側迄、段差補修用の資材を運んだ。以前は行仙岳まで休憩なしで歩く事ができたが、最近では2度の休憩をとるようになってしまった。



雨水槽を戻す

補修資材を運ぶ行

本日の参加者(仙宿班)

行仙岳からの帰り道、ちょうど12時だったが湯川君から電話があり「今ちょうど21世紀の森に着いた。途中の奥駈道に異常は無い」との報告だった。東屋岳の登山口を出て4時間15分、一人でこの区間を巡視して無事下山したと報告を受けほっとした。

小屋に戻り昼食のあと下山した。途中モノレール終点の工事現場で見学とお手伝い。床の拡張、屋根の下地は完成していた。後片付

けを手伝い登山口に降りる。

東屋岳巡視班は午後3時過ぎに下山すると思われるので、少し早いが梶野、山川車を大森、小西のお二人が運転して東屋岳登山口へ移動する。午後3時過ぎに登山口到着。梶野君への無線が繋がり、あと30分位で下山見込みと連絡があった。皆で下山を待っていると連絡の通り午後3時40分過ぎに5人の姿が見えた。

上村さんと由井さんが巡視した笠捨山の捲き道は荒廃が進んで大変だったようだ。今日も無事全員帰還して一安心だ。(記；沖崎)

行仙宿から東屋岳迄の巡視



行仙宿を出発

笠捨山捲き道分岐

倒木を切除

行仙宿から東屋岳迄は5名(梶野、阪口、山川、上村、由井)で歩く事になり、行仙宿整備班より先に登りだす。第1ベンチでモノレールが降りてくる音が聞こえた。昨夜は行仙宿で泊ったが、思い

のほか気温が低く、あまりよく眠れなかった。

行仙宿に着き暫く休憩して東屋岳を目指す。笠捨山捲き道の分岐で「私は捲き道を行きます」と言う上村さんと、たぶん初めてだと言う由井さんを見送り急な登りに取り付く。



倒木を切除

笠捨山東峰

笠捨山西峰

この頃から気温が上昇して、額に汗が噴き出してきた。順峰で間違いやすい所にテープを付け、倒木を2本処理。笠捨山の東峰、反射板の前に登りついた。この反射板はもう使われていないと思うが、撤去されないのだろうか。

西峰の山頂に移動し、しばらく休む。由井さんから「捲き道の分岐に到着した」と電話があったので慌てて下り始めた。捲き道分岐手前で倒木一本を処理し、30分で2人と合流した。捲き道は荒れており20ヶ所で通行困難。崩れた沢は新しく落ちてきた土石で不安定な状態で通過に苦労したようだ。26番鉄塔まで移動し昼食を摂る。



テープを増やす

順峰登山者に出会う

四阿之宿に到着

「地藏岳の捲き道はどうする？」との声があったが、捲き道の距離が短く、崩れそうな箇所が無い事から、全員で奥駈道を進むことにした。地藏岳前後のクサリにも異常は無く、無事に通過した。東屋岳の登りで太ももが痙攣し、薬を飲んで10分ほど休む。この休憩や倒木処理、テープ付けなどで約30分の遅れになった。四阿之宿の石柱に湯川君が残したメモが張り付けてあった。東屋岳からもテープを付けながら下り、50分でみんなの待つ国道に降り立った。

(記：梶野)

行動タイム

行仙宿 09:27→09:36 捲き道分岐→11:48 笠捨山東峰→11:51
笠捨山西峰→11:25 捲き道分岐→11:50 26番鉄塔 12:30→13:42 地藏岳→14:46 四阿之宿→15:46 R425 登山口

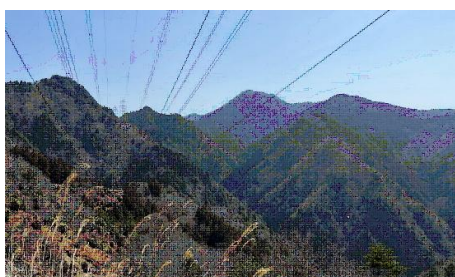
東屋岳から21世紀の森巡視

東屋岳登山口で本隊と別れ、杉の枯れ枝を踏みながら登り出す。東屋岳へは切り株の上に石、赤テープも随所があり、迷うことはない。標高1,100Mを超えたあたりからは、部分的につづら折りだった道が直登の道に変わっており、所々古いテープを回収した。東屋岳（四阿之宿）で、登りにかかった時間と倒木処理する必要は無い旨をメモし、行仙宿からの選抜隊に分かるように石柱に貼り付けた。小休止し出発、振り返しのところで枯れた石楠花を一本切除した。

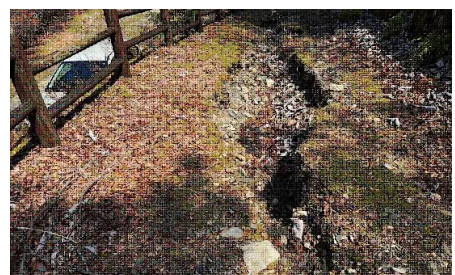
香精山直下で上葛川から登って来た1組と会う。聞くと笠捨山まで行き、通信道を下って帰るようで、通信道の状況を聞かれたので、昨年3月に歩いたときの倒木やガレ場の状況を伝えた。



本隊と別れる



30番鉄塔から笠捨山



雨で深い溝が

貝吹之野から下り始めたところで、吉野へ縦走する若者が休憩して

おり、今日は行仙宿泊まりとのこと。「水場への道はきつそうと聞いているが」との言葉があり、急坂なので登り返しに少し時間がかかるかと伝えた。

その後は淡々と下り、古屋の辻で右に折れ、車をデポしている21世紀の森に戻った。

なお、大峯奥駈道登山口の石柱までは、未舗装の道を車で乗入れることができたようだが、大雨により進入口に深い溝ができ、車の乗り入れは難しい。
(記・湯川)

行動タイム

東屋岳登山口 07:42→09:11 東屋岳 09:23→10:07 香精山 10:07→10:39 塔の谷峠 10:39→11:31 古屋の辻 11:31→11:56
21世紀の森